

準備

環境によってイは

```
cifs-utils
```

が必要

マウント

```
mount -t cifs -o username=<ユーザー名> //<マシン名>/<共有フォルダ名>,soft /mnt/win
mount -t smbfs -o codepage=cp932,iocharset=utf8,username=<ユーザー名> //<マシン名>/<共有フォルダ名> /mnt/win
smbmount //<マシン名>/<共有フォルダ名> /mnt/win -o username=<ユーザー名>
```

オプションに `soft` を付けると、相手サーバがクラッシュしてもハングアップしない。

ユーザ名の指定について

マウント元が AD に参加している Linux の samba の場合、ユーザ名の指定に注意。

```
winbind separator
winbind use default domain
```

の値に関係なく、

```
-o username=ドメイン ¥ ユーザ名
```

のように区切りを「`\\`」として、ドメイン名を指定しないとダメらしい。

パーミッション

以下のように、`file_mode`、`dir_mode` でパーミッションを設定できる。

```
sudo mount -t cifs -o username=test,file_mode=0700,dir_mode=0700 //192.168.38.155/share /mnt/smb
```

fstab の書き方

<http://www.measure-zero.jp/blog/linux/2006-10-08-023821.html>

```
//srv/public /mnt/public cifs rw,soft,credentials=/etc/cred.file 0 0
```

または

```
//srv/public /mnt/public cifs rw,credentials=/etc/cred.file,domain=GROUP,iocharset=utf8 0 0
```

`credentials` でユーザー ID とパスワードを書いたファイルを指定する。

`cred.file`

```
username=hogehoge
password=fugafuga
```

credential で指定するファイルのパーミッションには注意。
mount -a -t cifs とやってテスト。

UID の設定について

<http://mitpage.seesaa.net/article/295164833.html>

マウントする際に

```
-o uid= ユーザ名 OR uid
```

などのように、uid を指定したほうが良い。

例：
mount -t cifs //IP アドレス / 共有フォルダ名 マウント先 -o username=Samba のユーザー名 ,password= パスワード ,uid= 所有者名

uid を省略すると uid=0 が指定される。uid=0 は root になる

ユーザ名が数字だけの場合（ユーザ名が 100001 とか）は
ユーザ名指定ではなく、uid 指定のほうが良い。

数字だけのユーザ名を指定すると、chmod などをした時にパーミッションエラーが出たりすることがある。

文字コードについて

<http://d.hatena.ne.jp/tkng/20090204/1233710552>

古いバージョンでは codepage が使えていたが、新しいバージョンは codepage が効かなくなっている。

なので、文字コードが異なる共有をマウントする場合は、convmvfs を使うと良い。

ダウンロード

<http://sourceforge.net/projects/fuse-convmvfs/files/>

からダウンロード

インストール

```
./configure  
make  
make install
```

使い方

```
convmvfs /path/to/mountpoint -o icharset=cp932,srcdir=/mnt/samba
```

これで /path/to/mountpoint にアクセスすると、/mnt/samba 以下にあるファイル名が UTF-8 で見えるようになる。

使い終わったら

```
umount /path/to/mountpoint
```

でアンマウントする。

日本語のパスがマウントできない場合

<http://infrase.jp.org/?p=54>

vagrant や docker など最低限のパッケージのみの環境では

```
nls_utf8
```

が含まれていないため、日本語のパスがマウントできなかつたり、日本語が化けたりすることがある。

nls_utf8 が含まれていない場合は

```
apt install linux-image-extra-virtual
```

などでインストールする。